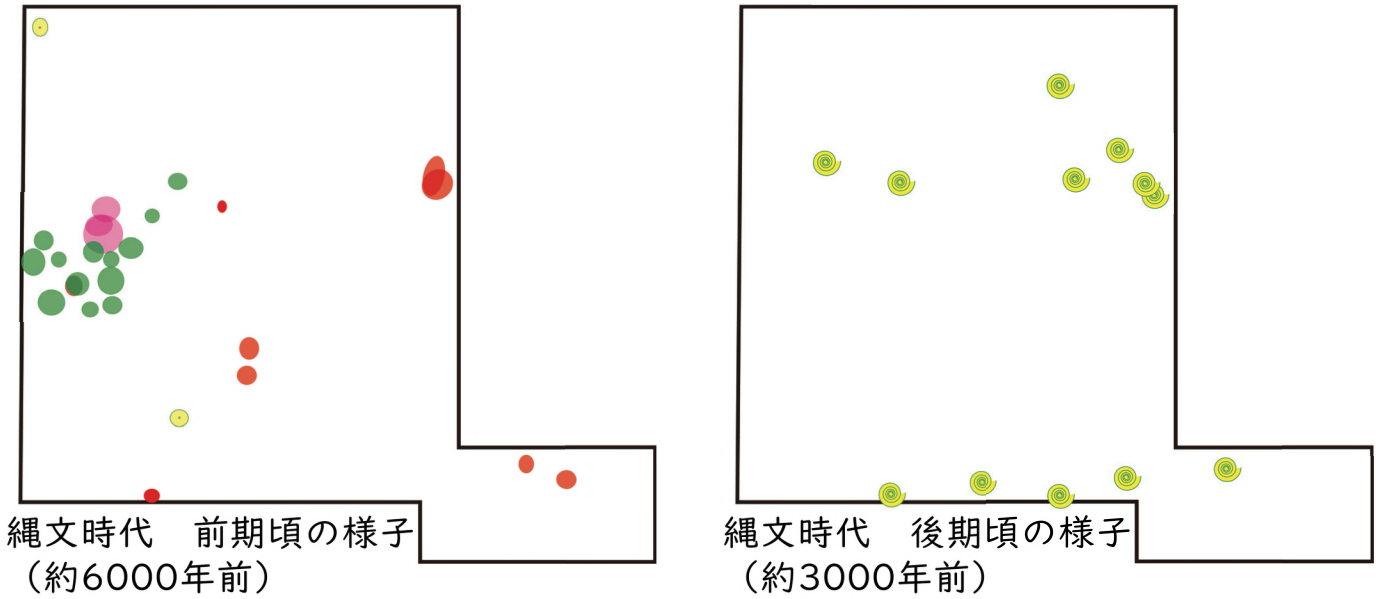
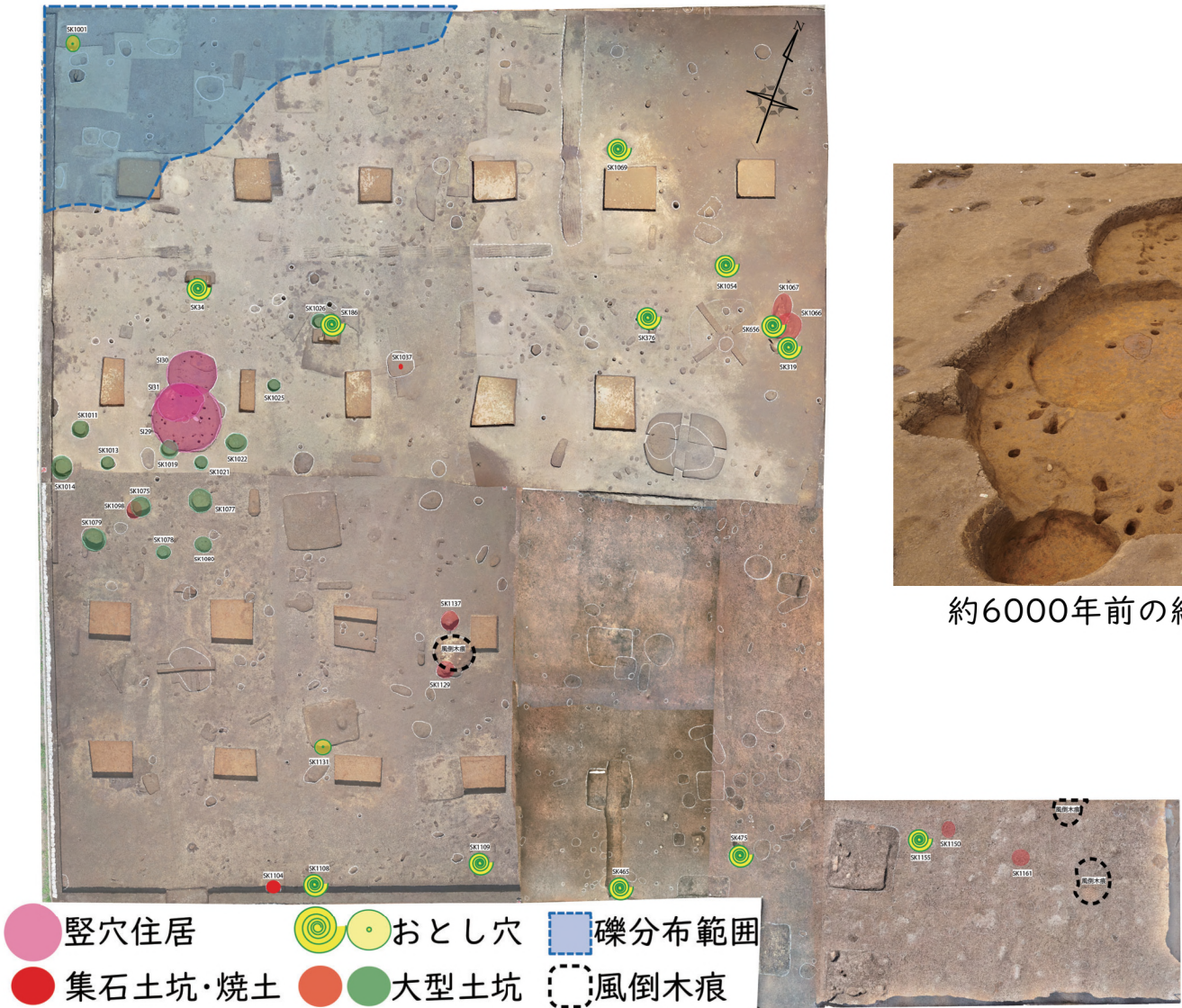


都留市 牛石遺跡現地説明会

昭和測量株式会社 2026/9/23

第1調査エリア（第2面）

第1調査エリアでは、第1面で発見された奈良・平安時代の集落跡の下を掘り下げ、第2面からは縄文時代の竪穴住居などが見つかりました。竪穴住居は縄文時代前期のもので、現在までに3軒確認されています。



牛石遺跡年表

縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代～
約1万6000年前 縄文時代の始まり	約2300年前	約1700年前	710年 噴火の記録は781年のみであるが、万葉集などに見られるように、火を吹いていた時期。	794年 延暦の噴火、貞観の噴火といった大規模な噴火だけでなく、11世紀までたびたび噴火が起きている。	1185年
このころから富士山の活動が低調になる。	この頃環状列石が進み、遺跡が少なくなってくる。富士山の規模は噴火が多数起こる。	この頃環状列石が進み、遺跡が少なくなってくる。富士山の規模は噴火が多数起こる。	この頃環状列石が進み、遺跡が少なくなってくる。富士山の規模は噴火が多数起こる。	この頃環状列石が進み、遺跡が少なくなってくる。富士山の規模は噴火が多数起こる。	この頃環状列石が進み、遺跡が少なくなってくる。富士山の規模は噴火が多数起こる。



約6000年前の縄文時代の竪穴住居



見つかった約6000年前の土器



火山灰が入り込んだ大型の土坑

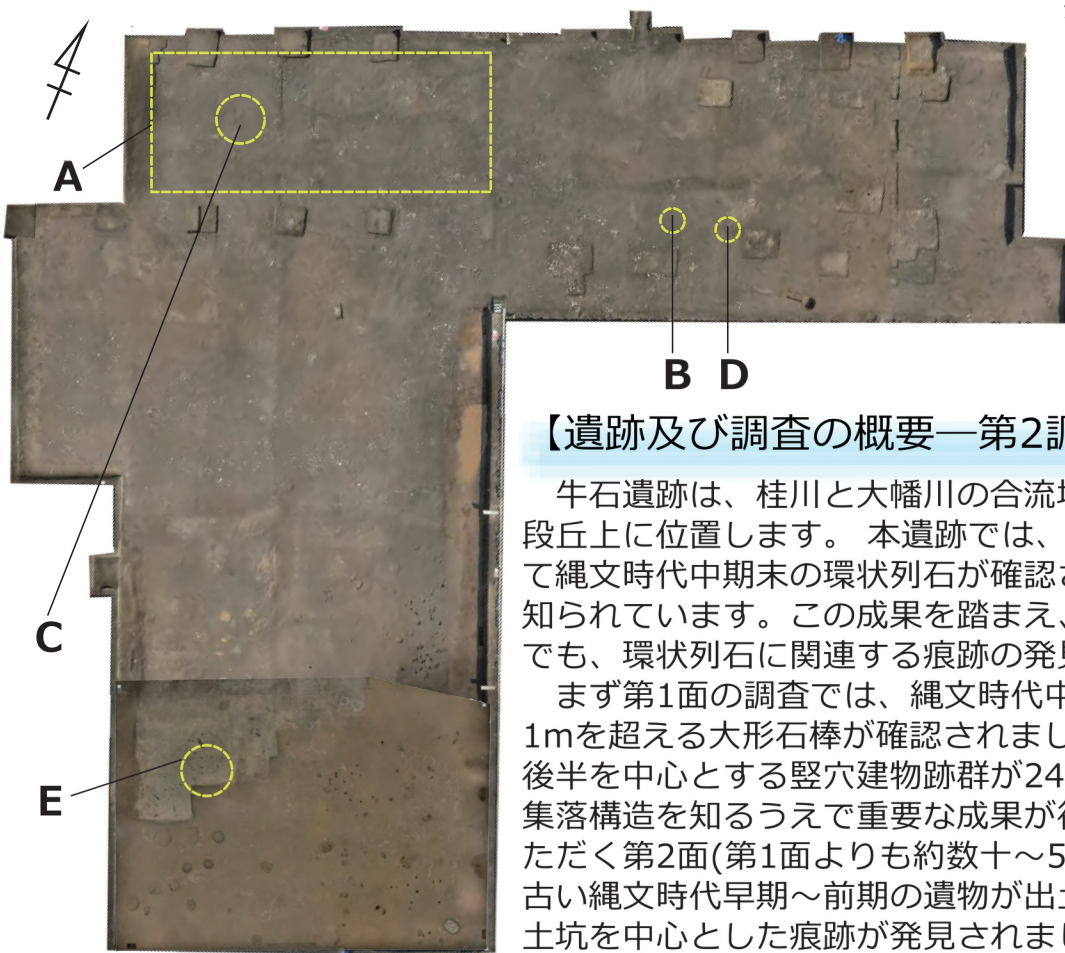


焼石を詰め込んだ集石土坑



おとし穴の底には木の枝を突き立てた跡が黒く残る

昭和54～56、60～62年に行われた牛石遺跡の発掘調査では、縄文時代、弥生時代、奈良時代、平安時代のものが見つかりました。なかでも、縄文時代では中期末葉の配石遺構や、早期から中期までの土器などが見つかりました。今回、第2面の縄文時代の調査では、人が住んでいた前期頃の様子と、人が住まなくなった後期頃の様子が見つかりました。前期頃では竪穴住居のそばに大型の土坑が並び、少し離れて集石土坑が見つかりました。その後の後期頃には、たくさんのおとし穴が仕掛けられた、狩場が見つかりました。



▲ 牛石遺跡第2調査エリア



▲礫が出土する土坑の集中分布

【遺跡及び調査の概要—第2調査エリアについて—】

牛石遺跡は、桂川と大幡川の合流域に広がる平坦面をもつ河岸段丘上に位置します。本遺跡では、1980～1981年の調査において縄文時代中期末の環状列石が確認されており、その発見で広く知られています。この成果を踏まえ、2025～2026年の今回の調査でも、環状列石に関連する痕跡の発見が期待されていました。

まず第1面の調査では、縄文時代中期末の柄鏡形敷石住居址や、1mを超える大形石棒が確認されました。さらに、奈良時代前半～後半を中心とする竪穴建物跡群が24棟（暫定）見つかり、古代の集落構造を知るうえで重要な成果が得られました。今回ご覧いただく第2面(第1面よりも約数十～50cm下層)では、これらよりも古い縄文時代早期～前期の遺物が出土しています。多数の礫群や土坑を中心とした痕跡が発見されました。



▲礫が多量に出土する土坑SK847(Bの地点)

多くの土坑で礫には顕著な被熱痕がみられず、炭化物や焼土の出土もごく限定的です。



▲礫が多量に出土する竪穴状遺構SX7(Cの地点)

数十cmの掘り込みに礫をはじめ土器や石器が含まれています。炉や柱穴などは確認できませんでした。



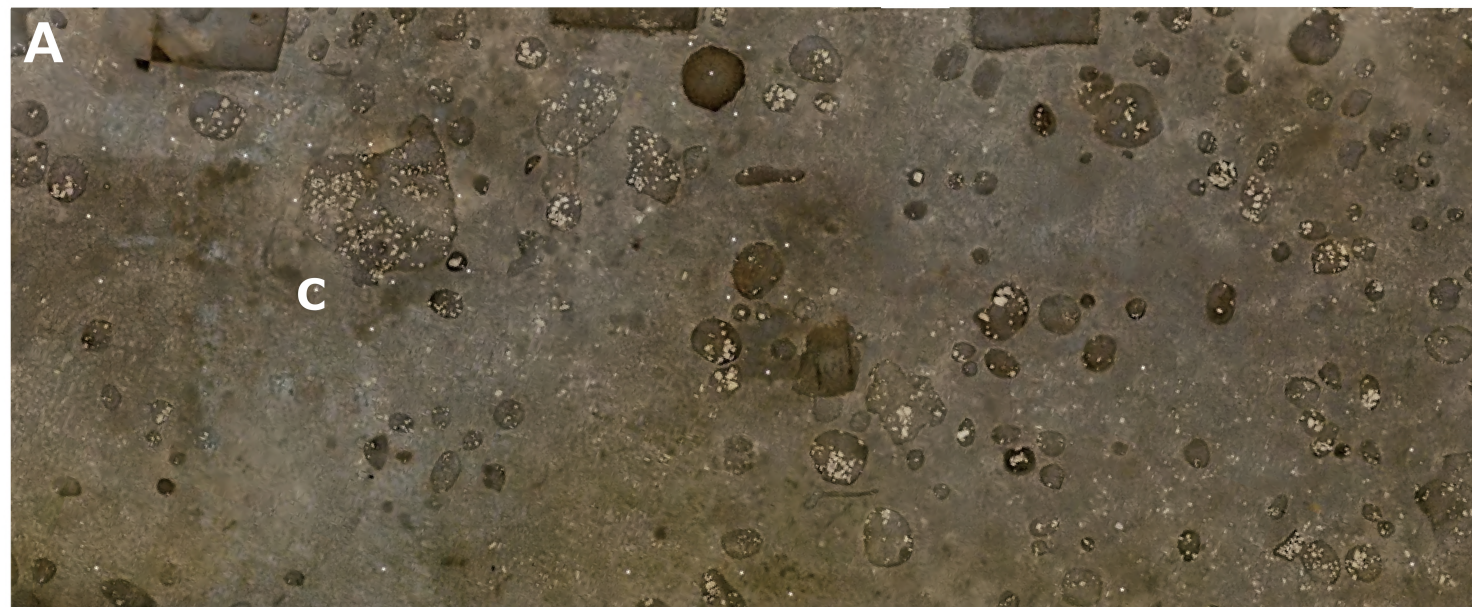
▲落とし穴SK1069 (Dの地点)

底面の小穴に棒を立て、動物の足が地面につかないよう保持して生け捕りにする仕組みが認められます。



▲竪穴住居跡SI26(Eの地点)

石組部分は炉、周囲に無数に点在する掘り込みは柱穴であったと考えられます。



▲多量の礫の検出状況(Aの範囲)

【第2調査エリア第2面の調査成果】

第2面ではこれまでに、縄文時代中期後葉（約4500年前）の**落とし穴 3基**、縄文時代前期～中期前半頃の**竪穴住居 1棟**のほか、用途不明の**竪穴状遺構 4基**、**土坑 700基**が発見されています。

第2面は遺物量は第1面より少ないものの、縄文時代早期頃（約7000年前頃）を中心とする土器が発見されており、遺構の大部分は、この時期に構築されたものと考えられます。

土坑は、多量の礫を含むものと含まないものに大別できます。とりわけ特徴的なのは、多量の礫を伴う遺構と多数の土坑の存在であり、第2面は礫の出土によって明確に特徴づけられます。

これらの状況から、第2面では礫を使用するような活動が繰返し行われた可能性があります。これがどこまで人為的なものであるのか、引き続き検討していきます。



▲第2面検出縄文土器

礫とともに出土した沈線文系土器(縄文時代早期)。



▲出土石器(SX7出土)

牛石遺跡第2面では多様な石器が確認出来ますが、なかでも石鏃の出土量が際立ちます。